



平成29年1月17日

「キャリア教育推進連携シンポジウム」が
東京 国立オリンピック記念青少年総合センター
に於いて開催された

日向商工会議所が
第六回キャリア教育推進連携表彰の
「最優秀賞」を受賞



第六回キャリア教育推進連携表彰「最優秀賞」を授賞する
日向商工会議所 三輪純司 会頭

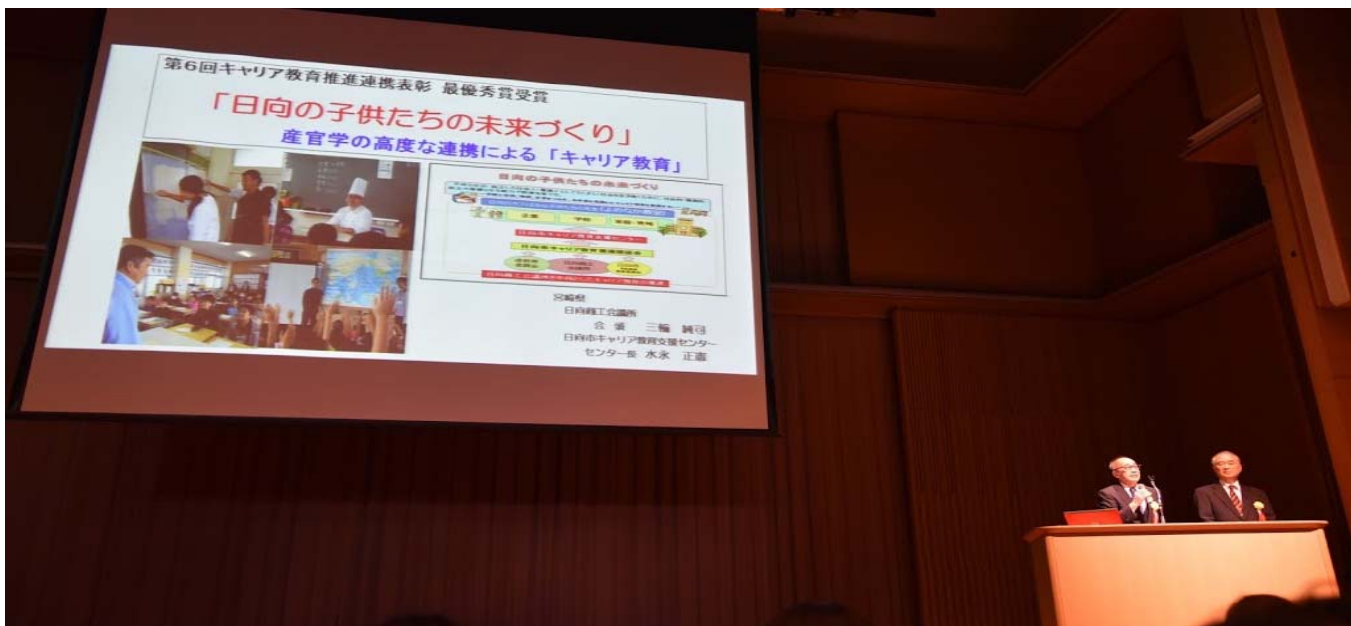
授賞プレゼンを行う

日向商工会議所

日向市キャリア教育支援センター

三輪会頭

水永センター長



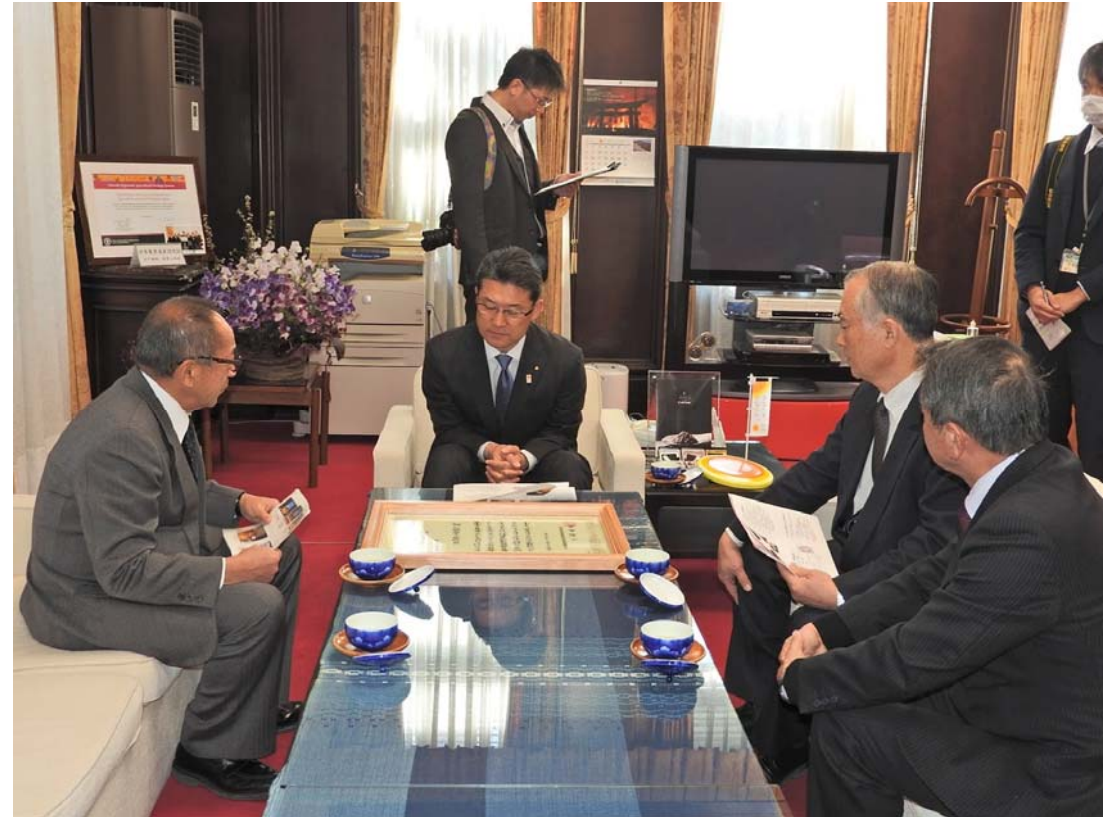




1月23日 日向市長に報告



1月25日 県知事に報告





1月25日 **県教育長に報告**

日向商議所の キャリア教育

最優秀賞

文科省・経産省

共同で表彰

「よのなか教室」など高い評価

文部科学省と経済産業省が共同で実施している「第6回キャリア教育推進連携表彰」に、日向商工会議所の取り組むキャリア教育が最優秀賞に選ばれた。受賞は県内初。地域で働く大人が教壇に立つて働く意義など語る「よのなか教室」などが高く評価された。

同表彰は、キャリア教育の推進を図ろうと平成23年度に創設された。今回は全国から20件の応募

があり、最優秀賞1件を含む計6件が受賞。表彰式が17日に東京都の国立オリンピック記念青少年

総合センターで行われ、三輪純司会頭が代表して表彰状を受け取った。

日向市では平成25年、同会議所内に市キャリア教育支援センターが開

所。日向の大人はみな子供たちの先生」を言葉に26年、よのなか教室は始まった。27年度は市内の15小中学校で96回開か

れ、働く喜びだけでなく、失敗や挫折から立ち直ったエピソードなどは、子どもたちの心に響き大きな学びとなっている。

同表彰ではまた、キャリア教育を積極的に活用している日向市の財光寺小が「キャリア教育優良学校」として文部科学大臣表彰を受けた。全国の19小学校、22中学校、35高校が受賞しており、県

内では財光寺小のみだったという。

日向商工会議所、市キャリア教育支援センター、財光寺小の代表者らは23日、日向市役所を訪

れ、十屋幸平市長に受賞を報告。同会議所の三輪純二会頭は「地元で生まれた子どもたちと企業とのミスマッチを生まないよう、よのなか先生を今後も増やし取り組みを続けていきたい」、財光寺小の三樹和幸校長は「おかげで子どもたちの社会への窓が広がった。いろいろな価値観や可能性に触れることは教育の質向上に

つながっている」などと話した。

よのなか先生には現在、社会人約180人が登録しているという。十屋市長は「素晴らしい取り組み。よのなか教室を通していろんな選択肢を知れることは、子どもたちにとってとても大きい」などと取り組みに感謝を述べた。



キャリア教育推進連携表彰の受賞報告に市長室を訪れた関係者ら（23日、日向市役所）

キャリア教育推進連携表彰

日向商議所が最優秀

県内初

小中高授業や研修評価

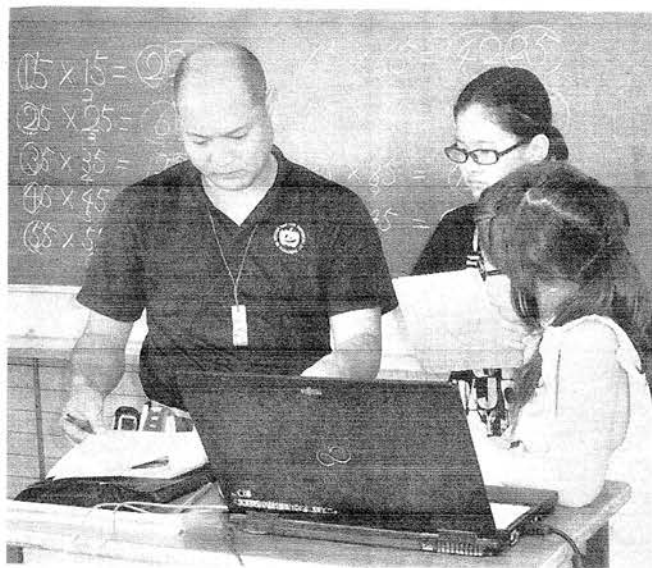
文部科学省と経済産業省が共同で実施している「第6回キャリア教育推進連携表彰」で、日向商工会議所のキャリア教育の取り組みが県内初となる最優秀賞に選ばれた。市キャリア教育支援センターを設け、多彩な担い手確保に努めている

ほか、研修会などを通して学校現場と産業界の意見交換を図っている点などが評価された。同商議所は2013年8月、県と日向市の委託を受けて、キャリア教育の事務局となった。商工会館内に同センターを開所し、旭化成延岡支

社長などを歴任した水永正憲さん(67)をセンター長に、3人のコーディネーターを配置。学校や行政、産業界の橋渡し役となっている。

地域で働く大人が教壇に立ち、働く上での心構えや生き方を説く「よのなか教室」を継続して実施しており、15年度は市内の15小中高校で96回の授業を展開。受講した児童・生徒数は延べ9千人にのぼった。水永センター長は「教育の役割と責任は産業界にもある。産業界を束ねる商議所が受賞したということに意味があり、日向モデルが県内全域に広がっていくといい」と話している。

同表彰は全国のキャリア教育推進のため、11年度に創設された。今回は全国から20件の応募があり、最優秀賞、優秀賞各1件、奨励賞、審査委員会特別賞各2件の計6件が受賞。延岡市教委などが実施し



昨年6月に実施した財光寺小での「よのなか教室」(同校提供)

ている講師派遣事業「地元企業からの学び」も奨励賞を受賞した。また、同商議所のキャリア教育を積極的に活用している日向市・財光寺小(三樹和幸校長、437人)が「キャリア教育優良学校」として、文部科学大臣表彰を受けている。3団体の表彰式は17日、東京都の国立オリンピック記念青少年総合センターである。(松田みゆき)

(宮日新聞) 1/15

第6回キャリア教育推進連携表彰 最優秀賞受賞

「日向の子供たちの未来づくり」

産官学の高度な連携による「キャリア教育」



宮崎県

日向商工会議所

会 頭 三輪 純司

日向市キャリア教育支援センター

センター長 水永 正憲

宮崎県日向市と 日向商工会議所

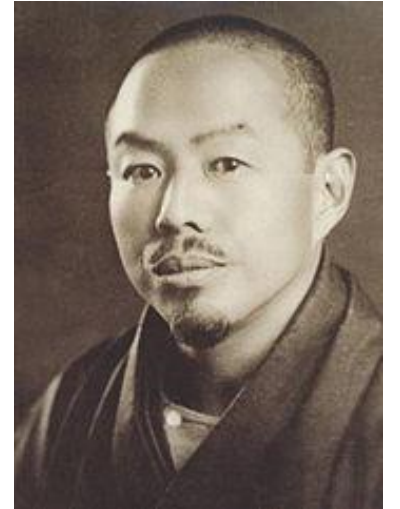


・人口 62、747人 (H28.12.6現在)

・神武天皇お船出の地(美々津)
ひょつとこ踊り
若山牧水 生誕の地

・小学校 14校
中学校 7校
高校 4校

・日向商工会議所(1510事業所)
(重要港湾・細島港を拠点として、製造業が3割と盛ん)



「キャリア教育」への取組の経緯

- 平成24年 宮崎県教育委員会 答申と方針決定
「小中高12年間を見通した宮崎にふさわしいキャリア教育の推進」
・縦（小・中・高校）と、横（学校・家庭・地域・企業）の連携 ・地区キャリア教育支援センターの設置
大阪商工会議所、横須賀商工会議所を視察・助言を受ける
- 平成25年 日向商工会議所に「**日向市キャリア教育支援センター**」が開所（コーディネーター3名配置）
「日向市キャリア教育推進懇話会」が発足（年2回開催）
商工会議所常議員会、校長会、教頭会、教務主任会、教育委員会等と意見交換
- 平成26年 市内モデル3校（小中校）にて、具体的推進計画と検討
「よのなか教室」がスタート、「よのなか先生」登録拡大活動を開始
- 平成27年 商工会議所主催にて各種研修会開催（企業合同研修、新赴任教職員研修）
「キャリア教育通信」の発刊と全教職員への配布
日向市未来創造戦略（地方創生戦略）にキャリア教育が位置付けられる
- 平成28年 高校生を核とした「高校よのなか教室」の推進
「よのなか先生」研修会の充実（教職員の参加が増加）
保護者（PTA）への啓発活動に着手
建設業協会等の業界団体との連携

産官学の高度な連携によるキャリア教育の推進

「産」 商工会議所の強力なリーダーシップ

- ・ 人手不足時代を先取りして、将来の産業人材としての小中高校生の育成に着手

「官」 行政の先進的な取組

- ・ 「日向市未来創造戦略」（地方創生戦略）に、
ふるさとを愛し日向の未来を支える人財の育成を位置付け
（「よのなか教室」を核としたキャリア教育支援事業の推進を明示）

「学」 教育委員会による学校（先生方）との連携の深化

- ・ 校長会、キャリア教育担当者会、教職員研修講演会などの積極的な展開

⇒「地域と企業」が、「学校（先生方）と、子供たちと、保護者」を サポート
（ “学校応援団”を めざす ）

「キャリア教育」とは何か？

1. フリーター、ニート対策ではない！

⇒職業教育のみになってしまう

⇒若年者雇用促進だけではない

2. 将来どう生きるか、を考えさせる教育

⇒何のために学ぶのかを考えさせる

⇒何のために働くのかを考える必要

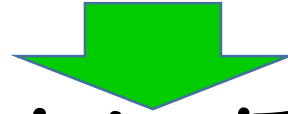
3. 社会と地域の人たちの力を借りて、 すべての教科で、子供たちに「将来」を考えさせる

⇒「総合」の時間で、核となる体験活動を組み立てる

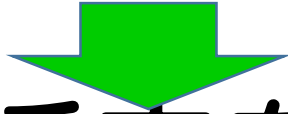
⇒その上ですべての教科に展開する

4. 「学力」と「生きる力」を向上させる

「何のために学ぶのか」



「何のために働くのか」



自分の将来を考える



自ら考える力、学ぶ意欲が高まる



「学力」と「生きる力」

「よのなか教室」

「日向の大人はみな子供たちの先生」

- 新人も、中堅の人も、管理職の人も、社長さんも、
お店を経営している人も、農林水産業の人も、仕事をリタイアした人も・・・
- 現在200名が登録 ⇒ 300人を目標に登録拡大推進中



ねらい

1. 子供たちに「将来どう生きるか」を考えさせる機会を増やしたい
2. 子供たちの学ぶ意欲を高め「学力を向上」させたい
3. 日向を子供たちが「喜んで住み続けたい」と思う街にしたい



次世代を担う子供たちに伝えたいこと

それは、「働く喜びと苦勞」

それを、「大人が本気で語ること」

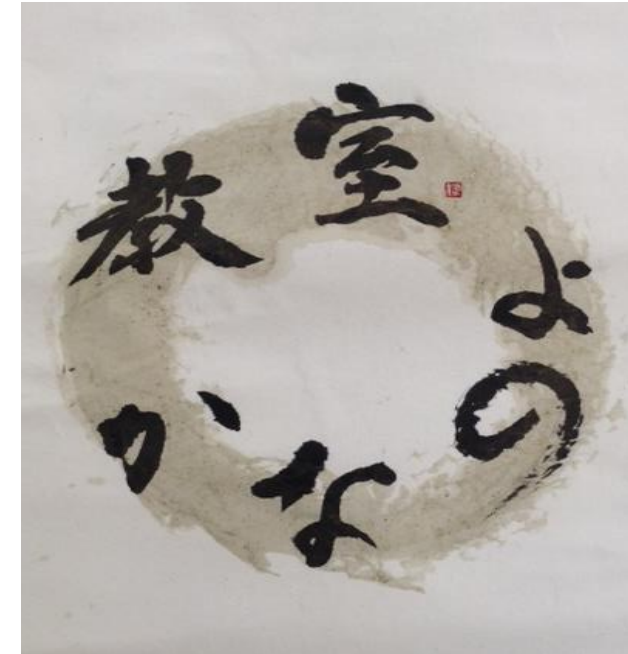




「よのなか教室」 実施結果

<平成27年度（1年間）>

- 実施学校数 15校／25校
- 実施回数 96回
- 講師数 219人＋92（中高生）
- 参加児童生徒数 9020人



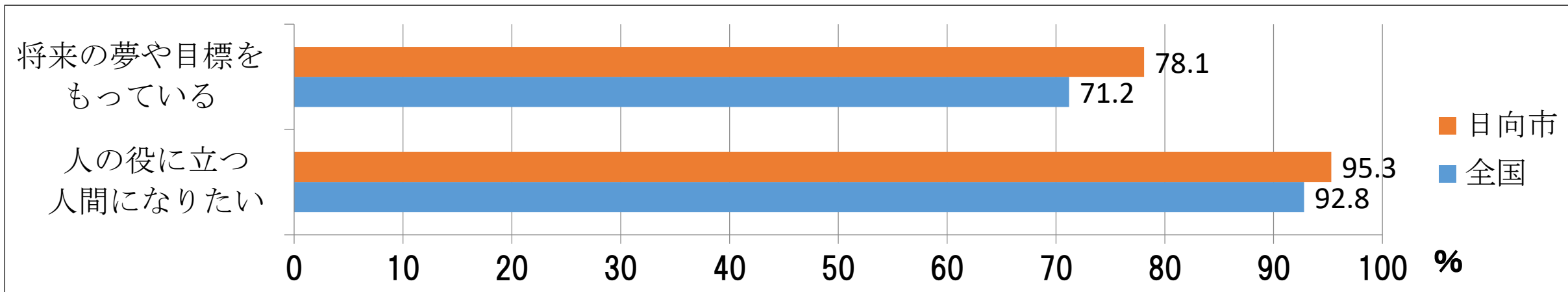
* 小学校	7校／14校	37回	73人＋38人	3083人
* 中学校	5校／ 7校	44	130 ＋54	4603
* 高 校	3校／ 4校	15	16	1334

「よのなか教室」の持つ力

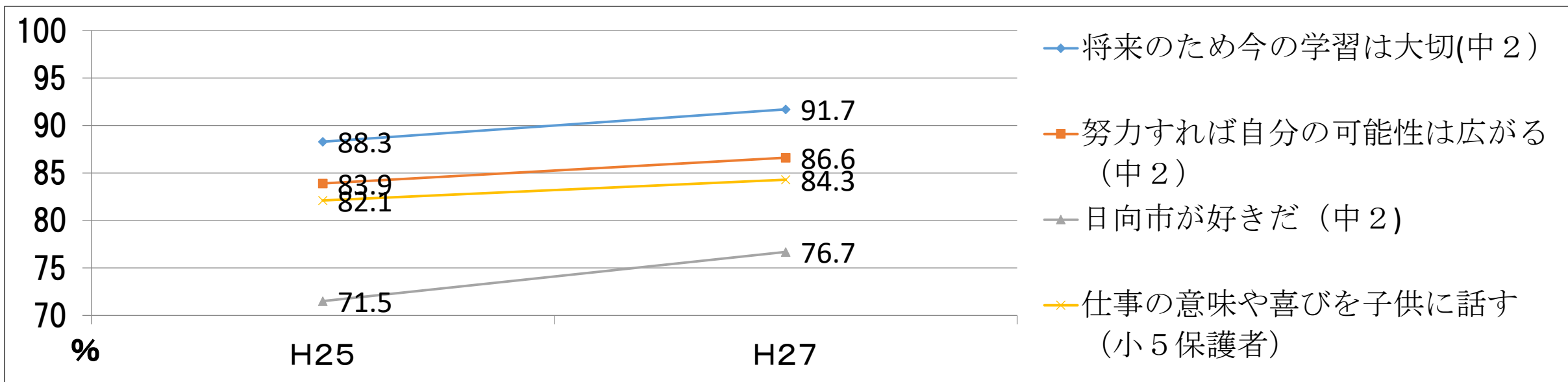
1. 「よのなか教室」では、社会人講師が決まったら、必ず事前に講師の職場を訪問して、打合せをすることになっている。⇒先生方が、気付き、意識が変わる。
2. 若い社員、中堅社員が子供たちの前で話すことで、一旦立ち止まって考える機会になり、仕事観を見直す気付きになる。⇒社員が成長する場になる。
3. 退職後の人が、「子供たちから元気をもらった」と。
⇒シニアの人たちの生きがい生まれる。
4. 子供たちが、普段先生から聞いていた話が、現実のことと符合することに気付き、理解が深まる。
⇒子供たちも成長する。

児童・生徒、保護者の意識の変容

H28全国学力テスト児童生徒質問紙調査結果より(中3)



H25～27日向市キャリア教育アンケート結果より(中2、小5保護者)



様々な工夫の継続

「よのなか先生」研修会の充実（平成28年11月28日開催の事例）（通算12回実施）

- | | | |
|-------------|--|---------------|
| 15:30～16:30 | キャリア教育教職員研修会（市教委主催） | （教職員 23人） |
| 16:40～18:00 | P T Aと連携したキャリア教育について
（P T A役員、社協職員、小学校校長でパネルディスカッション） | （56人、内教職員21人） |
| 18:00～19:00 | 「よのなか先生」研修会
（模擬授業、ベテラン「よのなか先生」による対談） | （63人、内教職員18人） |
| 19:00～21:00 | 交流懇親会 | （50人、内教職員13人） |

「キャリア教育通信」の発刊と全教職員への配布

平成27年6月から毎月発刊、平成28年4月から隔月発刊（既刊14号）



先生に「現実」を 経営者に「役割」を そして子供たちに「夢」を

＊学校を卒業していった子供たちが、いま社会の中でどんな苦勞を強いられているのか。

- ・職業選択の苦惱 （フリーター、ニート、非正規雇用）
- ・グローバリズムと格差社会

＊卒業してから鍛えるのでは遅すぎる。

- ・学校に出向き、小中高校生に、働く魅力を語る役割と責任がある

＊子供たちにネガティブキャンペーンを張るべきではない。

夢をこそ語るべき。

- ・圧倒的な人手不足時代 ⇒人を大切にする社会に必ずなる！

これからの課題と展望

* 学校、先生方に生まれはじめた自主的な取組

- 「創発」（部分の性質の単純な総和にとどまらない性質が、全体として現れること）
これを「管理」するのではなく、システム（DB、IT）を創る
- 学校において、毎年継承される体制と仕組みづくり

* 「よのなか先生」300人体制の早期確立

- 企業経営者と地域社会人の主体的役割認識の醸成
- 「よのなか先生」研修会のさらなる充実

* 保護者（PTA）へのアプローチ

- 参観日での「よのなか教室」の開催
- 校区内の保護者が「よのなか先生」になって「よのなか教室」を

高校生

宮崎県内就職 55%

全国最低 2年連続

文部科学省の学校基本調査で、今春宮崎県内の高校を卒業して就職した人のうち、県内に就職した人の割合は全国最下位の55%となった。県に記録が残る1970年度以来、最下位は昨年初めて、今年2年連続。県外の求人が多く、人材が流出することが一因とみられる。

(2016年 8月)

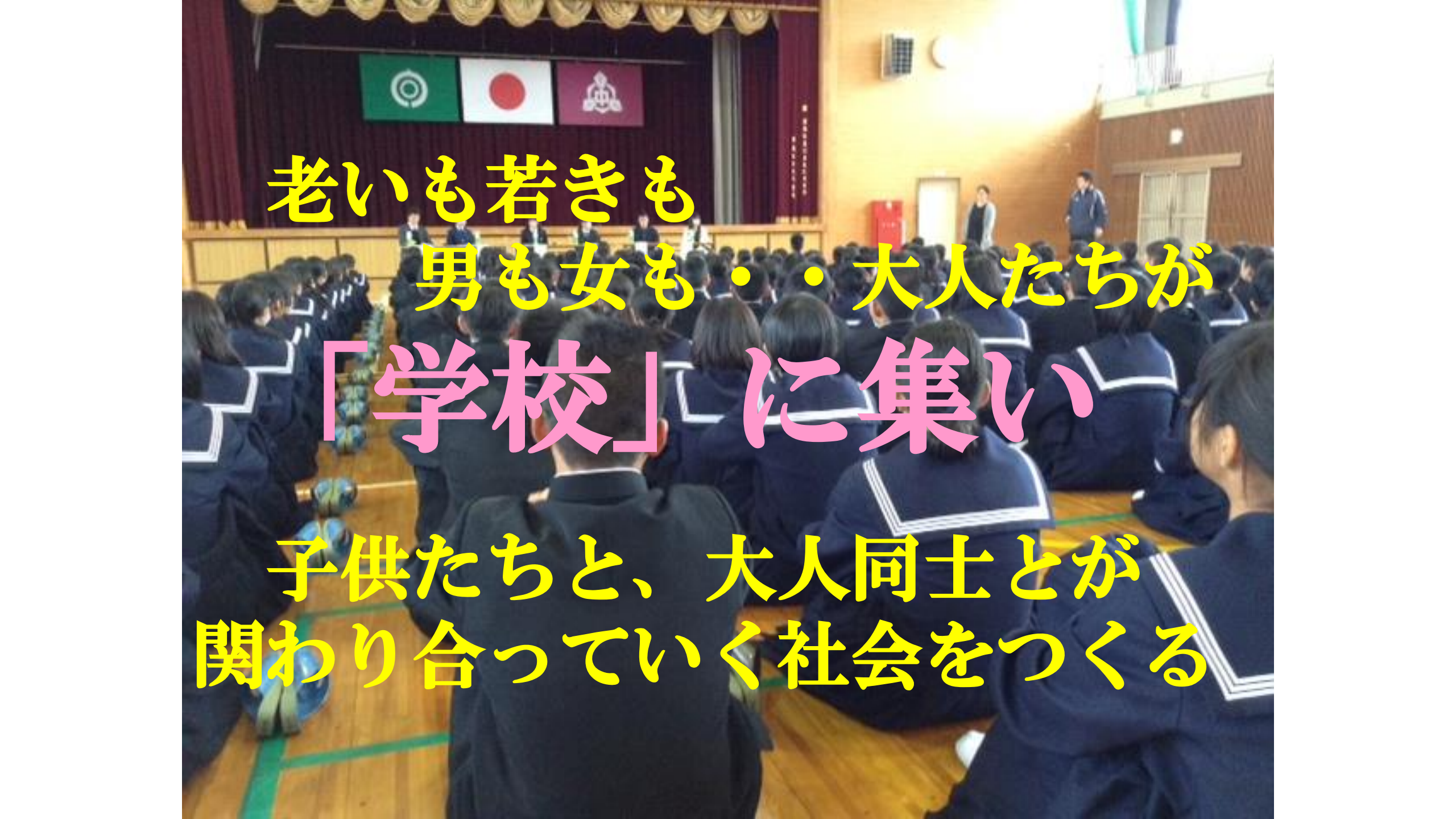


この日向を、
子供たちが、

喜んで住みつづけたい
と思う街にしたい

Photo MORIMORI All Rights Reserved

そのためには
日向の大人たちが
日向で働き・暮らす魅力を
子供たちに語り伝える
必要がある

A photograph of a school assembly in a gymnasium. Students in dark blue uniforms with white stripes on the sleeves are sitting on the wooden floor, facing a stage. On the stage, several adults are seated, and two more are standing. The stage is decorated with three flags: a green flag with a white circular emblem, the Japanese national flag, and a red flag with a white emblem. The text is overlaid on the image in yellow and pink colors.

老いも若きも

男も女も・・大人たちが

「学校」に集い

子供たちと、大人同士とが
関わり合っていく社会をつくる

【最優秀賞】

団体名	日向商工会議所
活動の内容（概要）	本団体は、「日向の大人はみな子供たちの先生」を合い言葉にして、働く大人（よのなか先生）が子供たちに本気で「働く喜びと苦労」を語りかける授業を行うとともに、「よのなか先生」に対する研修会等を実施するなど、学校だけでなく、企業や行政、地域など巻き込み、産・学・官をあげてキャリア教育の推進に取り組んでいる。

受賞理由

- ・商工会議所が中心となり、「地域の子供たちは地域の大人が育てる」というコンセプトの下、街をあげて子供たちの未来づくりを進めており、地元の人々の顔が見える取組である。
- 学生の県外流出を防ぐため、地元企業経営者をはじめとする地域社会で、地元への愛着を持ってもらう活動を進めている。
- ・産業界・行政・学校が課題意識や方向性を共有し、コンセプトの具現化のためにキャリア教育支援センターが大きな役割を果たし、コーディネーターがつなぎ手となっている。
- ・研修会、交流会等を通じて、共に学ぶ土壌を築き、多彩な担い手のネットワーク化を図り、事業の一貫性、継続性を高めている。
- ・「日向の大人はみな子供たちの先生」のスローガンの下で、小中高等学校における「よのなか教室」を開催するにとどまらず、当該「よのなか教室」実施前の学校との打合せの機会の確保、学校の教職員向けの「キャリア教育通信」の隔月発行などの工夫が見られる。

連携・協働している機関や団体、組織

【教育関係者（学校、教育委員会等の機関や団体）】

日向市立小・中学校 23校、日向地区県立高等学校 4校、日向市教育委員会、宮崎県教育委員会

【行政や地域・社会、産業界等】

日向市役所（産業経済部、総合政策部）、日向市PTA協議会、社会福祉協議会、ロータリークラブ、放送大学、漁協、農協、森林組合、職業安定所、建設業協会、建築士会、老人会、区長会、民生委員、社会人講師（よのなか先生）平成27年度延べ219人、中高生講師92名

活動開始の経緯

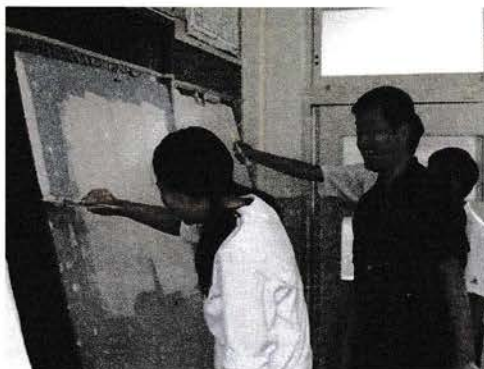
【活動開始時期】平成25年～ 【継続年数】4年

日向商工会議所は、平成25年度に宮崎県教育委員会のキャリア教育のパイロット事業と、日向市教育委員会のキャリア教育推進事業の委託を受け、「まちぐるみ」でキャリア教育の推進に取り組む活動を開始した。

日向商工会議所内の一室にキャリア教育支援センターを開設し、3名のコーディネーターを配置して、学校と企業や地域を結びながら、「日向の子供たちの未来づくりプロジェクト」を推進して4年目を迎えている。

「協力性」についての具体的な取組、工夫している点など

日向市教育委員会と連携し、平成25年8月に、日向市キャリア教育推進懇話会を発足させ、年2回定期開催し、産業界（工業会、農林水産の各組合、建設業協会、商店会、医療福祉団体など）、行政、学校の代表が集い、産官学を挙げて、問題や課題の研究・協議を重ねている。その結果、①「将来どう生きるか」を考えさせる機会を増やしたい。②学ぶ意欲を高め、「学力を向上」させたい。③日向を子供たちが「喜んで住み続けたい」と思う街にしたい。という3つの理念・方針で「日向の子供たちの未来づくり」に取り組んでい



<体験も交えながらの「よのなか教室」の様子>

るところである。これまで懇話会は7回実施され、今後も継続していく予定である。

また、日向市教育委員会が主催する「キャリア教育担当者研修会」や「転入教職員研修会」、「日向市小中高連絡協議会」に参加・協力するとともに、「よのなか教室」に派遣する「よのなか先生」の登録の拡充に努め、「よのなか先生」の研修会、「よのなか先生」と教職員の交流会等の企画・運営を実施している。

さらに、学校の教職員向けに「キャリア教育通信」を2ヶ月に1回発行したり、ホームページやブログを活用して活動の様子をこまめに発信したりしており、教職員やその他の関係者との理念や方針の共有化を図っている。

「継続性」についての具体的な取組、工夫している点など

中心となる事業の「よのなか教室」の実施にあたっては、学校からの「よのなか先生」の派遣要請と、派遣側の講師・企業とのマッチングやコーディネートとを、ある程度システム化している。具体的には、「よのなか教室」運営要領について、ホームページに掲載し、周知・徹底を図っている。また、データベース（登録者、実施実績など）のIT化を進めるなど充実を図っている。

さらに、「よのなか先生」登録者を拡大することを目標に登録依頼活動を幅広く展開している。現在、200人の「よのなか先生」に登録してもらっている。「よのなか先生」を対象とした研修会を、平成27年度は5回、これまで通算12回実施してきており、「よのなか先生」の質の向上を図る取組を行っている。この研修会への教職員の参加も増えてきており、「よのなか先生」と教職員の交流も深まってきている。

また、功績の大きい「よのなか先生」ならびに企業（講師派遣、キャリア教育全般に協力）を表彰し、その功に報いるとともに、広く市内外に周知してさらなる協力を得る手立てを講じている。

「実践性」についての具体的な取組、工夫している点など

中心となる事業として展開している「よのなか教室」の実施前には、必ず学校の担当者が「よのなか先生」の職場等に出向いて打合せを行うようにしている。その中で、先生方に新たな気付きや学び、アイデアが生まれ、その後の授業の工夫・充実につながっている。子供たちにとっては、普段先生から聞いていた話が、「よのなか先生」の話により、現実の生の社会でも同じであること（「挨拶は本当に大事である。」等）に気付き、社会への理解が一段と深まり成長するきっかけになっている。

「よのなか先生」を派遣する企業や団体にとってもメリットがある。例えば、若い社員、中堅社員が子供たちの前で話すことで、普段の仕事を一旦立ち止まって考える機会になり、自らの仕事観を見直す気付きになり、社員が成長する場になるという報告も受けている。

各学校で「よのなか教室」を実施した際には、ホームページに、企画の検討プロセス、成果だけでなく、工夫したこと、課題、子供の感想、活動の様子の写真などをできるだけ掲載するようにして、実績が他の学校に参考となり広がるように努力した。

※ H27年度 「よのなか教室」実施回数 96回 延べ参加児童生徒数 9020人

「発展性」についての具体的な取組、工夫している点など

これまでに実施した「よのなか教室」の実績等をもとに、ねらいや概要、実施に向けた準備事項、実践例、効果等をまとめ、『よのなか教室』のすすめ』というDVDを作成し、県内の全ての小・中・高等学校、教育委員会、商工会議所、商工会、その他関係機関に配付した。(約500枚)それぞれの学校等では、研修等で活用してもらっている。

また、設置しているキャリア教育支援センターのコーディネーターを地域の様々な団体の会合に派遣し、「よのなか教室」の効果のアピールや「よのなか先生」への登録依頼を行っている。

さらに、商工会議所の主催で、日向市社会人5年未満研修会(民間企業、教職員、市行政の合同研修会)、日向市小規模事業者合同入社式、管理職研修会、教職員の日向市新赴任歓迎会等を企画・実施し、産業人材の育成という視点から「日向の人づくり」に地域ぐるみで取り組む環境作りに努めた。

学校現場の評価・感想・コメント

- ・若い「よのなか先生」が仕事について熱く語られる言葉や笑顔が印象的だった。「よのなか先生」の話は、教職員や地域の大人がまず聞くべきと感じた。未来の日向を築いていく人材育成に携わる我々の原動力になるからである。
- ・本校では、子供たちが「よのなか先生」にその道を決断した理由を問う。決断にはその人が大切にしている想いが根底にあるからである。「救いたい」「新しいものを創造したい」「役に立ちたい」などの多様な価値観の鍬を入れ、子供たちの未来への土壌を耕し、小さな芽が出てくることを期待している。

関係諸機関(行政・産業・地域団体等)からの評価・感想・コメントなど

- ・ふるさとを愛する心を育む学習を、どう結び付けるかがよのなか教室では大切。教員だけではできない。道徳教育の全体計画の中によのなか教室を位置付けたり、キャリア教育の全体計画の中に郷土愛を位置付けたりする必要があるのではないかな。
- ・高校生が市内に就職しないが市内にも立派な企業が多い。市産業経済部としてはどうマッチングしていくか。高3のアンケートでは地元に残りたいが40%だったので、もっと前から手を打つということと、高2の進学希望者も含めて、15社の企業のプレゼンを聞く取組も行った。早い段階から日向市の素晴らしさを感じさせることが大切。課題はそのすばらしさの評価軸をどう設定するか。人口6万人の町の大人として、市職員が魅力を伝える訓練も必要である。行政の情報発信の一つとして「よのなか教室」をみてもいいのではないかな。



＜学級担任と「よのなか先生(新聞記者)」のティームティーチングによる国語の授業の様子＞